

奇跡の將軍

ひぐち

きいちろう

# 樋口季一郎

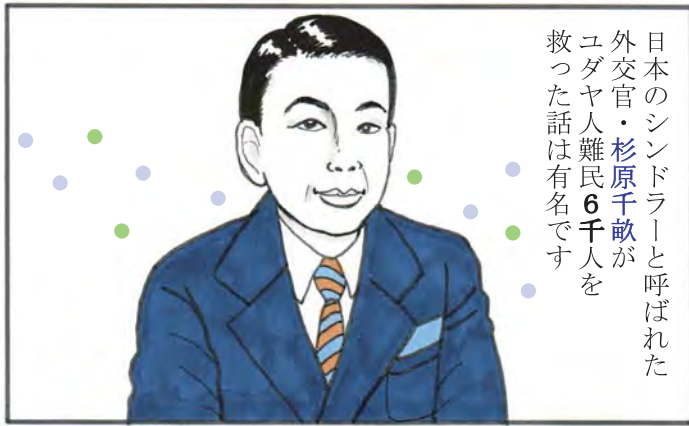
偉大なる

人道主義者

ゼネラル樋口



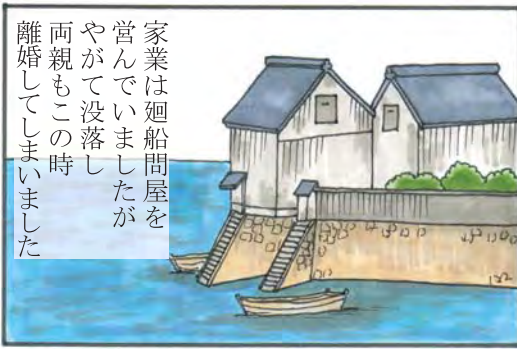
皆さん、樋口季一郎ひぐち きいちろうという人物を知ってますか？



樋口は明治21年  
兵庫県の淡路島  
に生を受けました

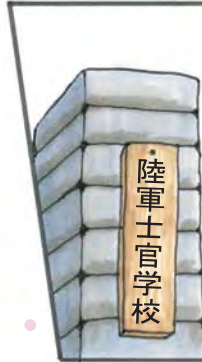


家業は廻船問屋を  
営んでいましたが  
やがて没落し  
両親もこの時  
離婚してしまいました



なので樋口は  
金銭的負担の少ない  
軍人への道を選びました

明治42年  
陸軍士官学校を卒業し  
さらに陸軍大学に進み  
ドイツ語やロシア語を  
学びました



大正3年には  
静子夫人を  
娶りました



陸大卒業後は  
情報将校として  
インテリジェンスに携わり  
大正14年には  
ポーランド公使館付武官  
を務めました



このポーランドで樋口の  
陸軍士官学校の同期の  
百武(ひやくたけ)晴吉が  
暗号研究に取り組み  
樋口は彼を支援しました

これにより  
日本陸軍の暗号技術は  
極めて高度なもの  
となりました



大東亜戦争中  
日本海軍の暗号は  
連合軍にほぼ解読  
されていましたが  
陸軍は最後まで  
解読されず

逆に  
ソ連軍の暗号を解読  
しました

それも数ある樋口の  
業績の一つです



また樋口は人脈を広げるため  
社交界デビューし



そのダンスや  
話の巧みさで  
瞬く間に人気者に  
なりました

各国のエリート武官が集る  
華やかなパーティの中  
浮いた夫婦がいました

ポツン

ソ連の  
ワルシヤワ駐在武官  
ブシンフェスキー  
中佐夫妻でした

中佐はソ連の  
共産革命まで  
鍛冶屋の職工  
だったので

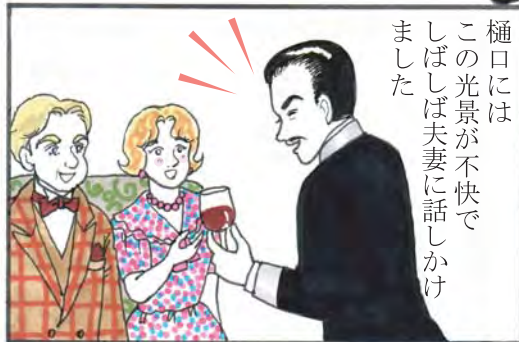
なので  
エリート武官達は  
彼を蔑視していました



ある国の中佐は  
曲ごとにパートナーを  
替えて踊るのに  
夫人だけは  
無視していました



樋口には  
この光景が不快で  
しばしば夫妻に話しかけ  
ました



また  
自宅に  
招待して  
日本料理で  
歓待すると



夫妻は  
涙を流して  
喜びました

オオッ

日本の**武士道精神**というのを  
聞き知っていたが  
あなたを見ていると  
その精神がわかる気がします

私にできることが  
あったらなんでも  
おっしやつて下さい!!





—では一つだけ  
お願いがあります  
あなたの国を  
旅行したいのです

黒海から  
クリミアまで…

ええっ!?

当時革命後のソ連は  
厳重な鉄のカーテンで  
閉ざされ外国人の入国を  
許していなかったのです

しかし  
ブシンフェスキーは  
スターリンにかけ合って  
ビザを取得しました

こうして樋口は  
友人の秦と南ロシア  
コーカサス地方を  
訪れました

革命後のソ連の  
地方都市はどこも  
貧しかったそうです

もちろん  
見聞した情報を  
参謀本部に報告  
しました

黒海沿岸の  
バトゥムに行った時  
老人に声をかけられました

あんたらは  
中国人か?

いえ  
日本人です!

おおっ  
日本人か!?  
初めて見る!

私はユダヤ人です  
世界中で一番不幸な  
民族です!

日本は  
太陽の昇る国であり  
その日いづる国に  
天皇という方がおられる  
その天皇こそが  
メシアだと思っ!!

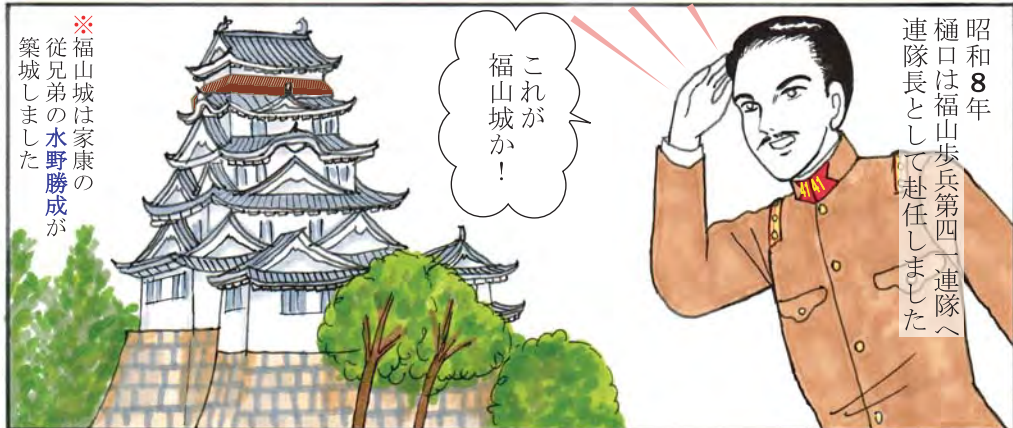
あなた達日本人は  
我々ユダヤ人が  
悲しい目に会った時にいつか  
どこかで助けてくれるに違いない  
あなた達がそのメシアなのだッ  
そうに違いないッ!!

弱ったなあ  
俺達はただの  
フツウの  
人間なんだけど…  
というエピソード  
がありました

昭和8年  
樋口は福山歩兵第四連隊へ  
連隊長として赴任しました

これが  
福山城か！

※福山城は家康の  
従兄弟の水野勝成が  
築城しました



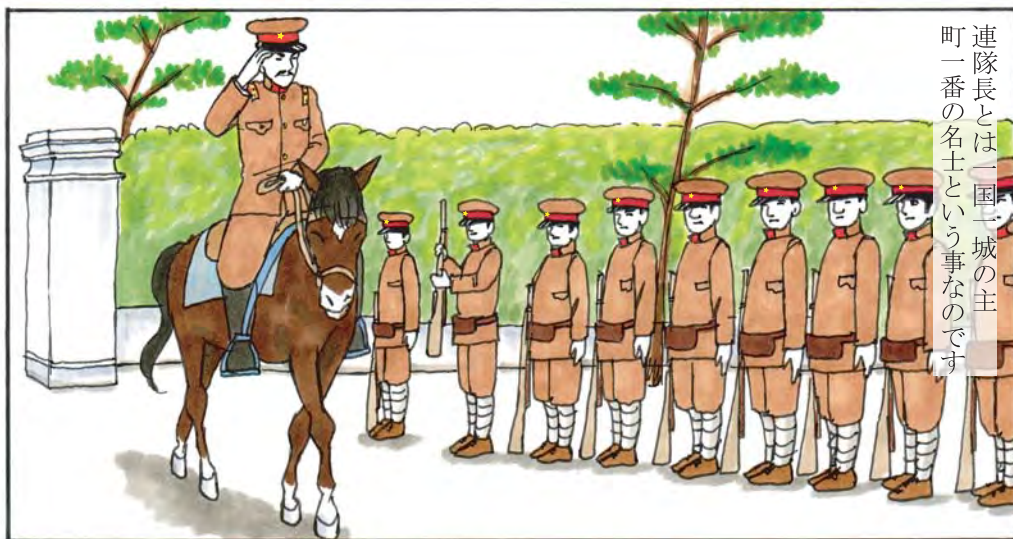
こちらは  
瀬の浦です

おおっ  
ここは桃源郷  
みたいだな！

※ここは昭和9年に  
日本初の国立公園に  
なりました

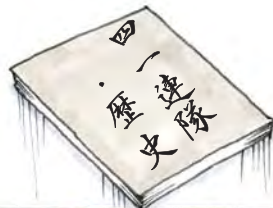


連隊長とは「国」城の主  
町一番の名士という事なのです





樋口は当然  
四一連隊の歴史  
を知ることにな  
ります



四一連隊は日露戦争・  
**万宝山の戦い**で軍旗を守り

連隊長以下  
必死で戦い抜いて  
全滅したことを知ります



四一連隊先輩達の  
偉勲をこのまま  
埋もれさせては  
絶対ならないな…



そうだ！  
ここに  
万宝山記念碑を  
建てよう！

そして  
樋口はその戦った日  
10月16日を  
「万宝山記念日」として  
慰霊祭を行いました



※揮毫は  
樋口の上司の  
小磯國昭です





しかし樋口が建てた記念碑は戦後  
進駐軍により破壊されて  
しまいました



現在は元四一連隊の  
門田武雄市議会議長が建てた  
四分の一ほどの大きさのレプリカが  
備後護国神社境内に残されています

激動の軍人生活の  
樋口にとって福山での  
暮らしはのどかでした

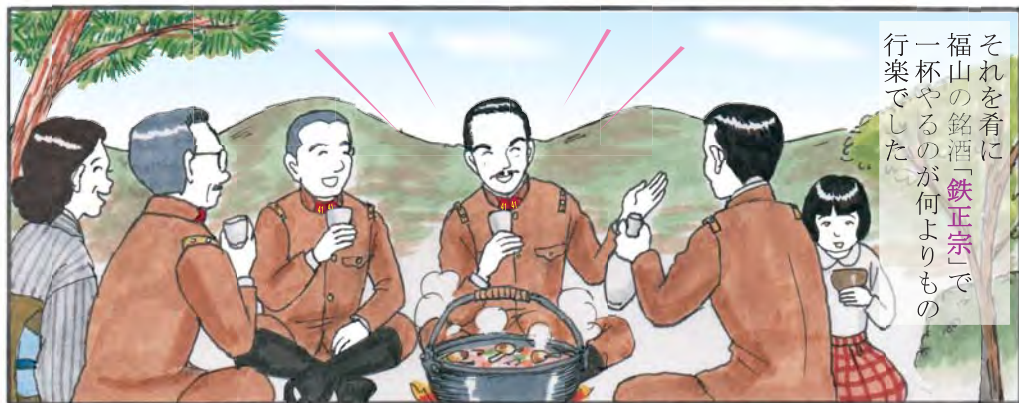


ボラや鯛釣り  
をしたり

秋ともなれば  
豊富になる松茸狩りに  
興じたり



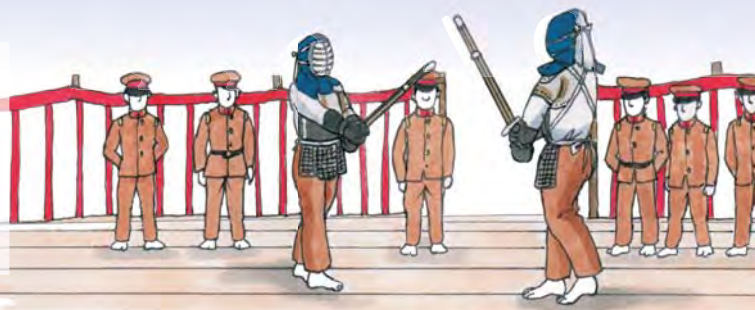
それを肴に  
福山の銘酒「鉄正宗」で  
一杯やるのが何よりもの  
行楽でした



※ 樋口は士気を上げるために  
剣術や射撃術を奨励し  
五師団対抗の剣術大会を  
行いました

※ 五師団とは別名

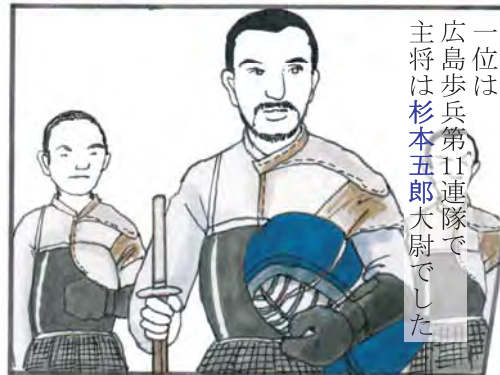
「鯉兵団」と呼ばれ  
広島11連隊・浜田21連隊  
福山41連隊・山口42連隊で  
編成されていました



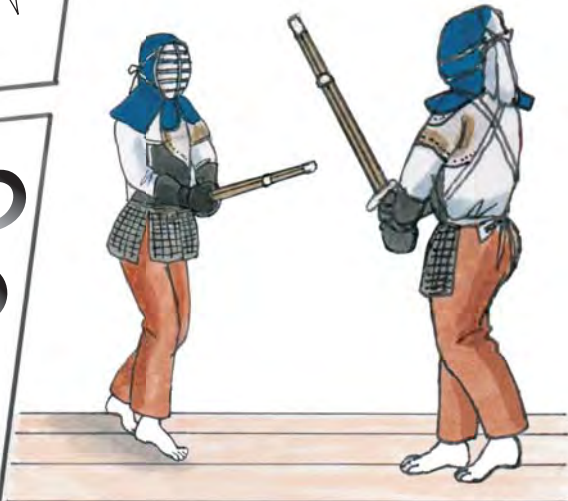
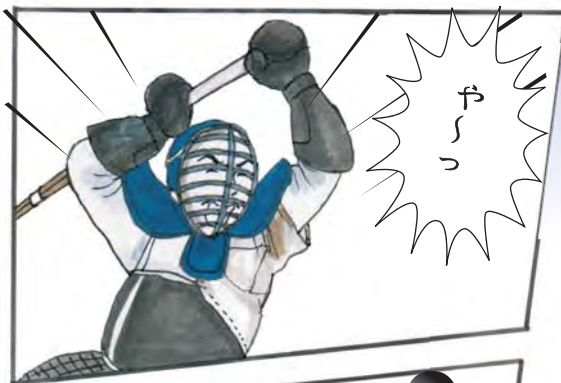
その大会で  
四一連隊の下士官たちは  
常に一位でしたが  
将校たちは二位に  
甘んじていました

くた

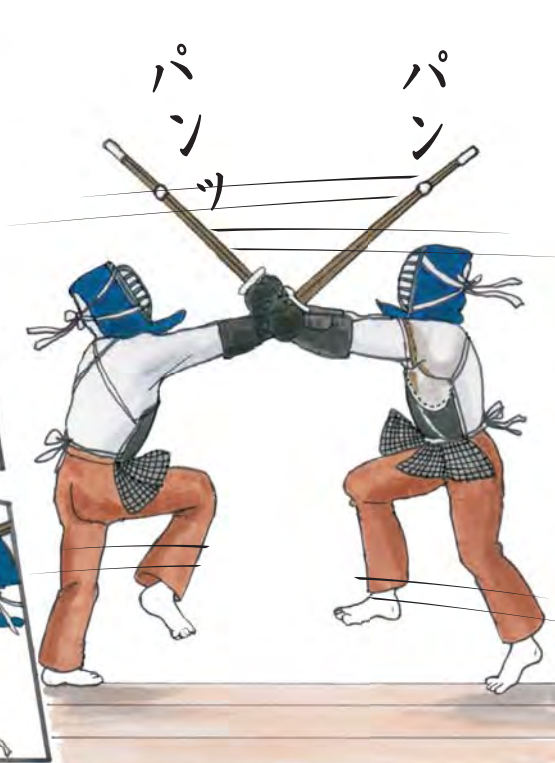
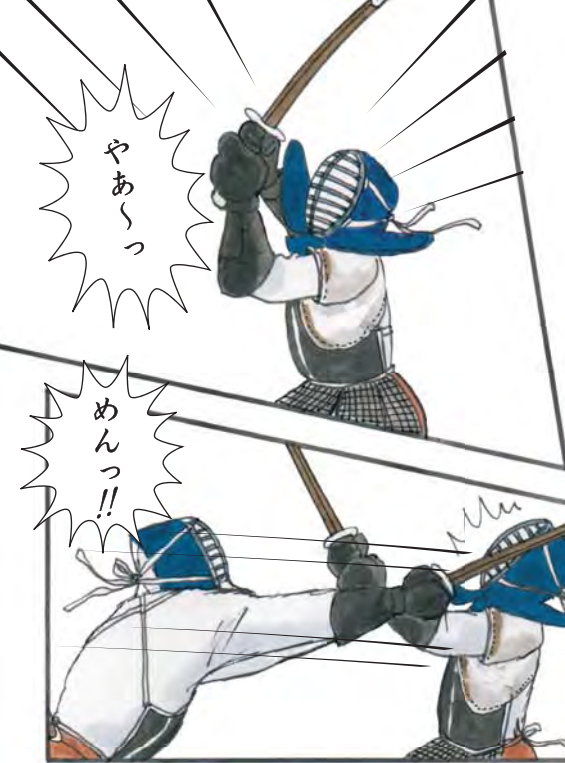
一位は  
広島歩兵第11連隊で  
主将は杉本五郎大尉でした



剣道の段位は  
樋口の方が  
杉本より上でしたが







杉本は樋口も認める  
連隊将校の至宝的存在で  
彼の尽忠至誠は  
乃木に匹敵するものでした

杉本大尉の口癖は

「兵とともに在り兵と生死をともしたい」  
が口癖で出世にはまるで  
興味がありませんでした

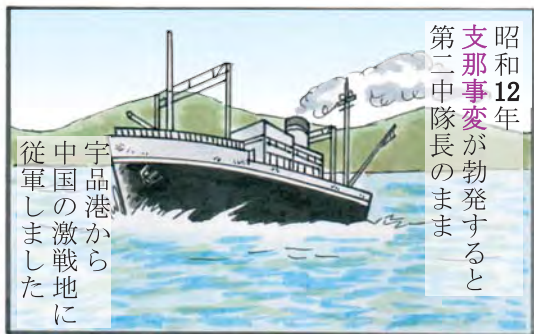


部下思いで  
特に貧しい家庭の  
部下への送金を  
欠かしませんでした



昭和12年  
支那事変が勃発すると  
第二中隊長のまま

宇品港から  
中国の激戦地に  
従軍しました



同年9月—

山西省広靈県東西加斗關山で  
激戦を繰り広げました

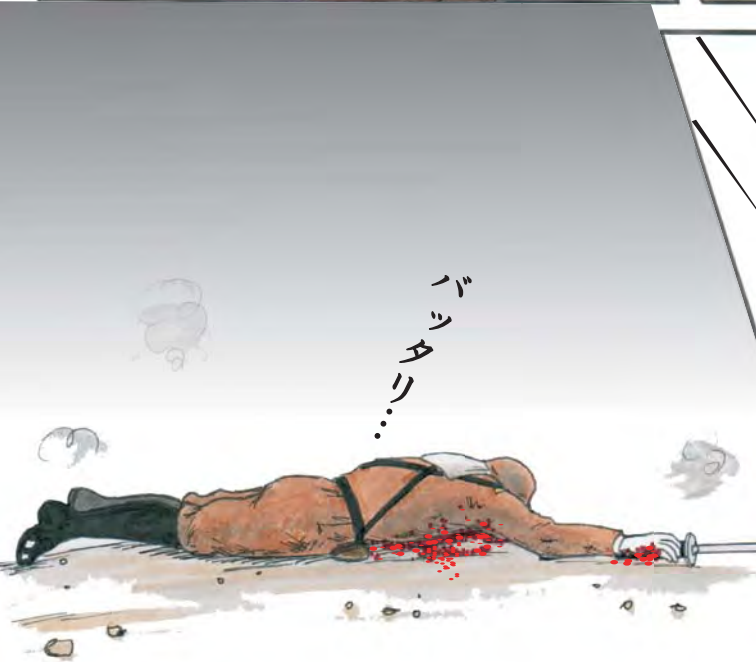
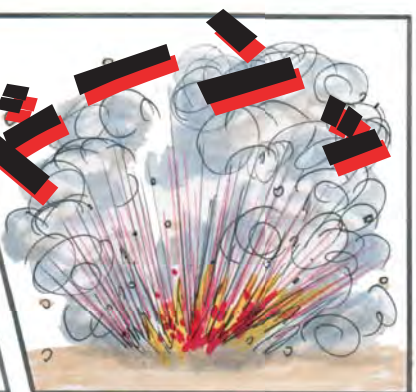
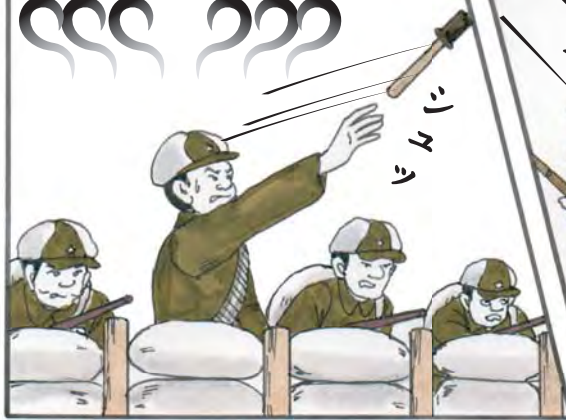


突撃!!

進めっ!!

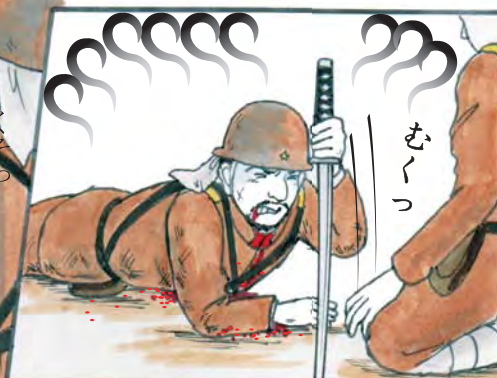






38歳でしたー

杉本大尉は皇居の方角に  
挙手敬礼をし  
立ったまま絶命しました

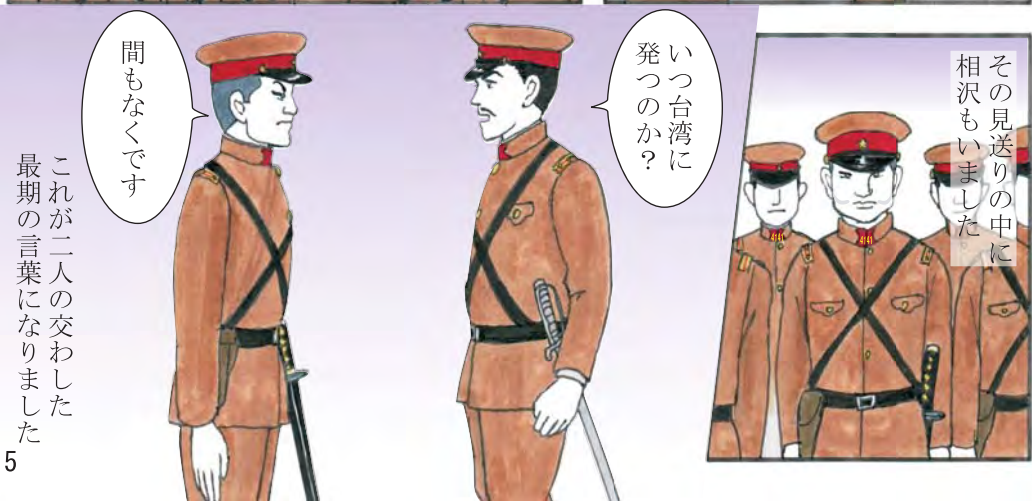
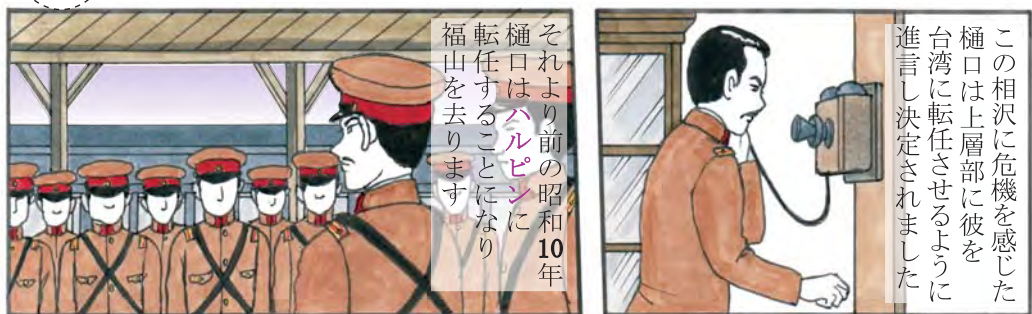
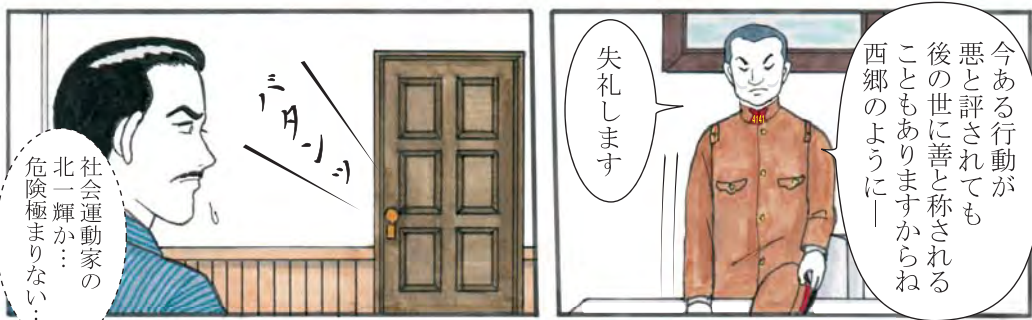


「名利など  
なんだというのか  
地位がなんだというのか  
断じて名聞名利の  
やからとなるな」等と  
死の寸前まで息子達に  
送った手紙20通が  
「大義」として刊行され  
大ベストセラーに  
なりました











その三日後ー  
長春に滞在していた  
樋口の元に新聞記者が  
駆け込んできました

大変ですっ！

相沢中佐が  
永田軍務局長を  
殺害しましたっ！！

なにっ？！

あいつ…  
何たる馬鹿な  
ことを…

一方  
樋口の留守宅では

奥様っ！  
大変なことに！

相沢中佐の  
奥様！  
どう  
なさったの！？

永田軍務局長  
を刺したのは  
うちの  
主人に間違い  
ありませんわ！

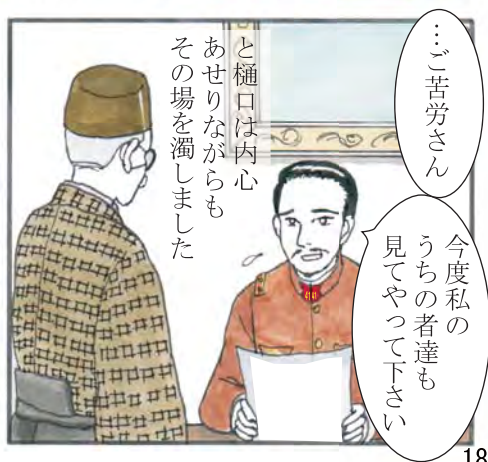
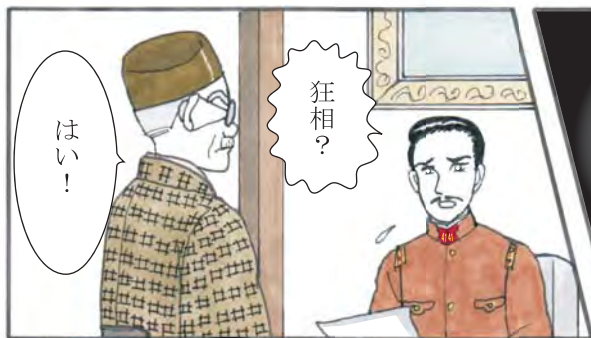
えっ！？



※ここは  
鯉節王と呼ばれた  
あんべわすけ  
安部和助が建てた  
洋館で現在は  
「福寿会館」として  
国の登録  
有形文化財と  
なっています







昭和12年  
樋口は**ハルピン**特務機関長に  
任ぜられます

日本の強い影響下にあった  
満州国に着任早々若手将校を集め  
自らの方針を伝えました

私は満州国の内政に  
干渉はしない！  
ここは日本ではなく  
満州国であるから  
満州人の不平不満を  
よく聞いてやり  
相談にのってやれ！

悪徳業者は  
誰であれ  
びしびし  
取り締められ！

ここで樋口はユダヤ人の  
**アブラハム・カウフマン**の  
要望に応えユダヤ人大会に  
出席しました

テーマは  
「**ナチスのユダヤ人差別に  
対抗する**」でした  
当時ドイツと同盟関係に  
あったので大会開催には  
多くの困難がありました

しかし樋口は  
この困難を乗り越え  
大会開催を認め  
自らも演説しました

今日世界の一隅において  
ユダヤ人に対する迫害を  
見つめることは  
人道主義の名において  
私は衷心悲しむ！  
ユダヤ人に祖国を与えよ！！

会場の2千人の  
ユダヤ人からは  
歓声と盛大な  
拍手が起こり  
ました

余談ですがこの会場の  
若い護衛役の一人が  
**ミハエル・コーガン**  
(タイトー創立者でした  
戦後樋口にお礼参りの  
ため来日しました)



昭和13年3月  
ソ連満州国境の  
オトポールに大勢の  
ユダヤ人難民が  
集結しているという  
情報が樋口のもとに  
もたらされました

ナチスから逃れ  
行先を失った  
ユダヤ人が  
満州国でも  
入国拒否にあい  
苦境に陥って  
いたのです



すぎる思いで  
入国許可を  
待っていて  
すでに凍死者も  
出始めていました

難民達は  
氷点下20度の  
極寒の原野に  
テントを張り



樋口はこの報告を受け  
懊悩していました

同盟国ドイツの国策に  
反するような決定を  
日本の一軍人が下す  
ことは容易な事では  
ありませんでした



そこにあのカウフマンが  
樋口に難民救出の懇願に  
やって来ました

ゼネラル樋口  
助けて下さいッ!

このままでは  
多くの同胞が  
死んでしまいます!!



もはや樋口には長考している  
時間はありませんでした  
そしてあのバトウムの  
老人の顔が浮かんだ時――



まず外交官の下村信貞と  
満州国外交部に働きかけて  
入国許可を促しました



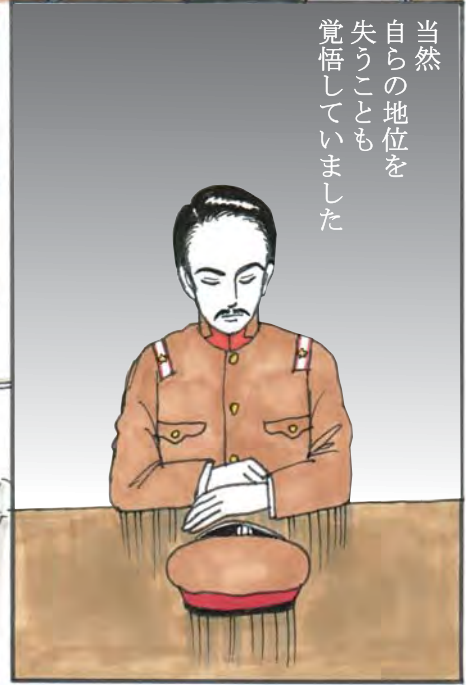
下村達には  
「人道上の問題」として  
難民受入れの外交手続き  
を指示し



さらに  
食糧や衣服などの手配も  
迅速にやり遂げました

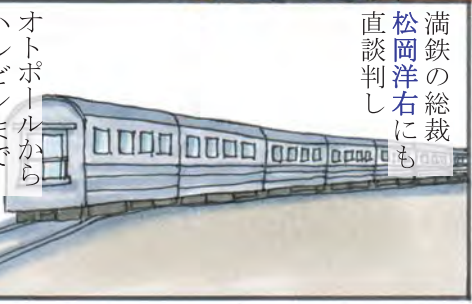
――すべて  
樋口の独断でした

当然  
自らの地位を  
失うことも  
覚悟していました



満鉄の総裁  
松岡洋右にも  
直談判し

オトポールから  
ハルビンまで  
難民を移送するための  
特別列車も手配しました



難民たちにはとりあえず  
5日間の滞在ビザが発行され  
地元の商エクラブや  
学校へ収容され  
九死に一生を得ました





—以上が  
**オトポール事件**の  
概要ですが  
後日ドイツから  
日本政府に  
激しい抗議書が  
届けられました

国内の  
外務省や陸軍省  
・関東軍内でも  
樋口の行動を  
問題視する声  
が上がりまし

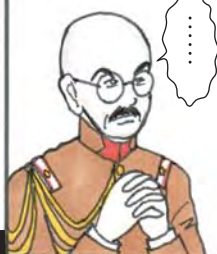


当時  
関東軍参謀長の  
**東条英機**に呼び出され  
事の顛末を追及されました

が  
臆することなく  
自説を主張しました



樋口の主張に東条は  
とがめることもなく  
懲罰も科しませんでした



武士道精神の  
勇気以外の何物  
でもありません

この時代背景と  
ハルピン特務機関長  
という地位での  
樋口の行動は



参謀長！  
ヒットラーの  
お先棒を担いで  
弱い者いじめする  
ことを正しいと  
思われますか!?

人道に反することは  
断じてできませんッ!!



戦後樋口は  
この救出劇について  
多くを語っていませんが  
自分の孫にはこんなことを  
言っていました

わしが  
ヨーロッパにいた頃は  
有色人種ということで  
色々な差別を受けた  
ものだったかな

そんな時に  
ユダヤ人には随分  
助けられたんだよ

日本人は  
ユダヤ人に非常に  
世話になったんだよ

だから  
恩返しをした  
だけなんだよ

へえ  
そうなんだあ

樋口はいつも自分の功績を  
讃えられるとその時の  
上司や部下のお陰だと  
謙虚さを失いませんでした

イスラエルには  
ユダヤ民族に力を貸してくれた人々を  
永遠に記念する為の**ゴールドンブック**  
というものがあります  
そこには**アインシュタイン**や  
**メンデルスゾーン**の名も記されていて



部下の**安江仙弘**<sup>のりひろ</sup>大佐や  
ハルピン・ユダヤ協会会長の  
**アブラハム・カウフマン**と共に  
樋口季一郎の名前が今も輝かしく  
記されています



ハルピン特務機関長の  
任務を終えた樋口は  
昭和17年  
札幌の北部軍司令官に  
任命されました



ここで樋口は  
アメリカ軍が  
パーフェクトゲーム  
と呼んだ奇跡を  
やってのけたのです！

北太平洋とベーリング海の  
境目にあるアリューシャン  
列島にアッツ島とキスカ島  
があります

気候はいつも鉛色の  
雲が立ちこめ  
夏は雨・冬は雪と  
いった不毛の地でした

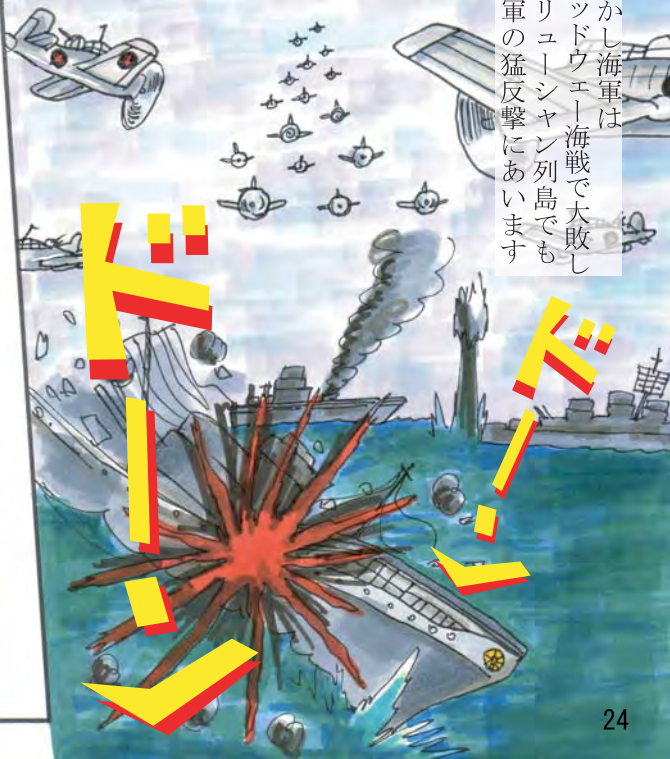
アラスカ

この2島を海軍は  
ミッドウェー作戦  
の陽動作戦として  
占領しました

アッツ島

キスカ島

しかし海軍は  
ミッドウェー海戦で大敗し  
アリューシャン列島でも  
米軍の猛反撃にあいます



この時樋口は大本営に  
両島からの早期撤退を  
要請しますが一蹴され  
てしまいます



当時  
撤退はありえず  
仲間達から  
「弱気の司令官」と  
あざ笑われたり  
しました



逆に大本営は  
両島の守備隊増強を  
決定しました

アッツ・キスカ島の  
守備隊を増強せよ！

仕方なく樋口は  
そのアッツ島へ  
新たな守備隊長として  
山崎保代大佐を  
送り出しました

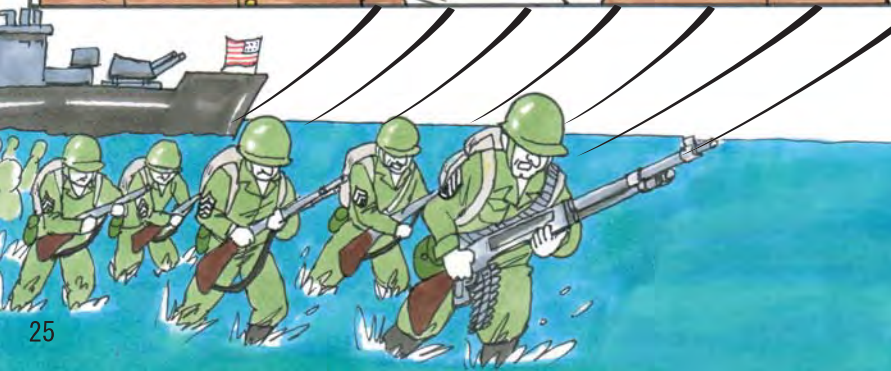
山崎の着任前夜  
自宅に彼を招き  
鯛と赤飯で  
歓待しました

万が一  
アッツ島に事あらば  
万策を尽くして  
援軍を送る！  
それまで全力で  
戦って欲しい！

勿論です

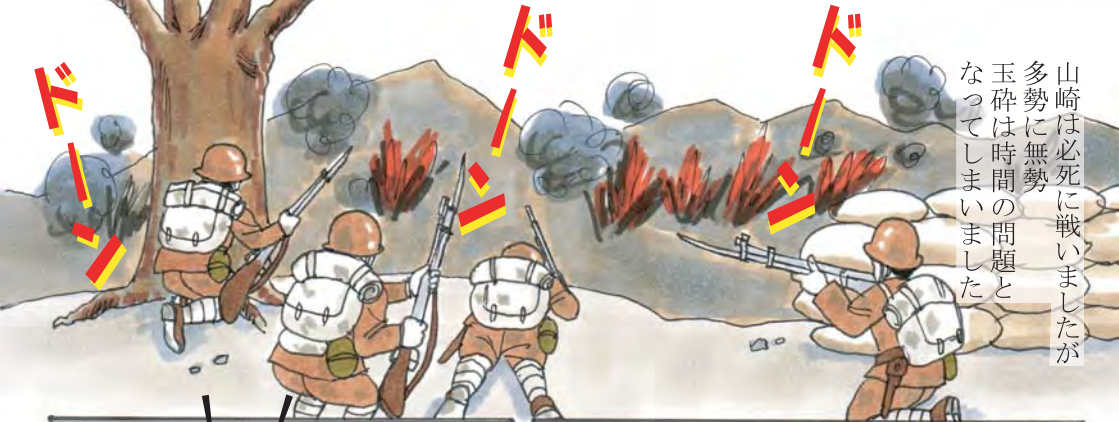
山崎は微笑みました

こうして樋口に  
送り出された山崎が  
着任早々  
ついに米軍がアッツ島  
上陸を開始しました





山崎は必死に戦いましたが多勢に無勢玉砕は時間の問題となっていました



ところが大本営から  
緊急電が届きました

アッツ島への  
増援計画は都合により  
放棄す—

その他の作戦準備は  
全て中止せよ！

この時樋口は  
新たな部隊と武器弾薬や  
食糧資材と共に輸送する  
ばかりの態勢でいました

必ず  
増援する！！



ばかなっ！！

樋口は怒りで  
振るえました



山崎との約束は  
どうなるんだッ

と号泣したそうです—



樋口は嗚咽をこらえ  
断腸の思いで山崎に打電しました

中央統帥部の決定にて  
本官の切望せる救援作戦  
は現下の情勢では  
不可能となれりとの  
結論に達せり…

そして山崎からの返電は—

…深く陳謝す

戦する身、生死は元より  
問題にあらず  
戦局全般のため  
重要拠点たるこの島を  
力及ばずして敵手に  
委ねるに至るとすれば  
罪は万死に値す—



その期至らば  
将兵全員一丸となって  
死地につき  
靈魂は永く祖国を  
守ることを信ず

…従来の懇情を  
深謝すると共に  
樋口閣下の健勝を祈念す—







ツンドラの  
荒野に  
散りました

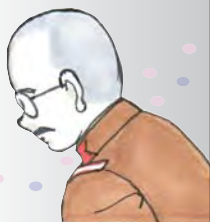
山崎は300の兵を  
引きつれ  
敵の銃砲陣地めがけて  
万歳突撃し

全機密書類焼却  
これにて無線機  
破壊処分す

これが山崎の  
最後の電文でした



この玉砕戦で  
日本軍の戦死者は  
**2638名**  
米軍は上陸した  
**11000名**中  
戦死者は  
**550名**  
戦傷者は  
**1140名**  
戦闘不能者は  
**1500名**  
でした



立派になって下さい  
母に孝養尽くすことが  
父の霊に對する  
何よりの  
供養と思われたし

進む道は何でも良い  
自分の好きな方面に  
行きなさい

圧倒的な力の差が  
ありながら19  
日間も  
持ち堪えたのは  
山崎の指揮能力による  
ものだったのでしょう  
山崎は4人の子供達に  
遺書を残しています

上司である樋口は  
自責の念にかられ  
食事も喉を通らず  
体重が10キロも  
落ちてしまいました

生涯アツツ島玉砕を  
忘れることなく  
戦後アツツ島の絵を飾り  
毎朝礼拝していました



アツツ島の  
二の舞は  
踏ませないッ

樋口はキスカ島撤退を  
大本営に強く要請し  
承諾を得ました

キスカ島には  
まだ  
5200名の  
将兵がいる！

キスカ撤退は「**ケ号作戦**」と名づけられました  
現場の指揮を取るのには髭がトレードマークの**木村昌福**第一水雷戦隊司令官です



木村は将兵撤退にあたり兵器を放棄することを進言しました

湾内での収容作業が一時間ですまなければ作戦は失敗するので身軽でいてもらいたい



—しかし当時菊の御紋章がついた銃を捨てることなどあり得ない事でした  
それを百も承知している木村は断固として譲らず樋口が「**兵器放棄**」という重大な決断を独断で下しました

閣下  
ご決断を！

分った…

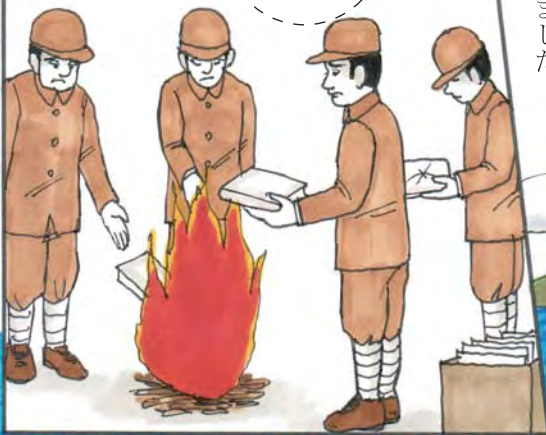


一方キスカ島には**峯木十一郎**を司令官とする陸軍**2700**名と**秋山勝三**を司令官とする海軍の**2500**名の守備隊がいました

アッツ島玉砕の報はすぐ彼らにも知らされ玉砕を覚悟していました

次は  
俺たちの  
番か…

そして  
身辺整理を  
始めていた時  
撤収の知らせが  
届きました

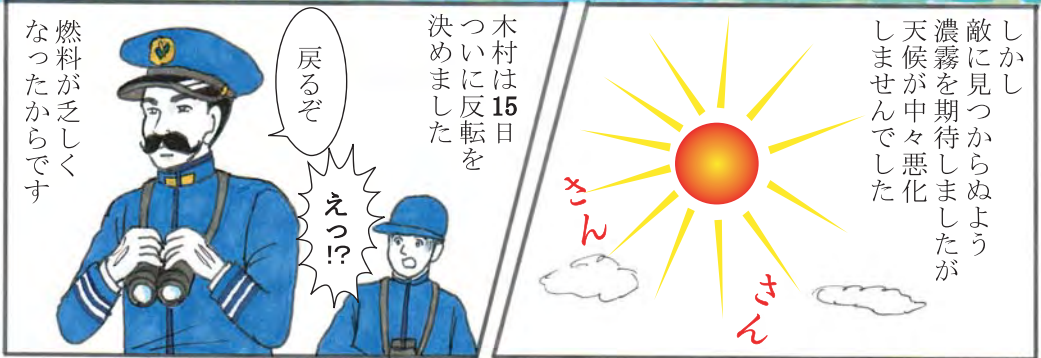




昭和18年7月7日  
木村率いる  
旗艦「阿武隈」は  
幌延（ほろむしろ）  
を出港します



11日に  
キスカ突入を  
決めていました



そして22日  
再出港し  
29日に無事  
キスカに  
入港しました



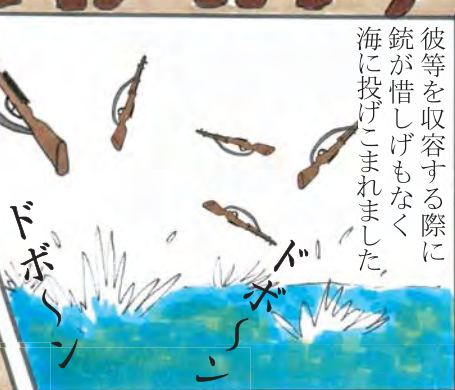
# うわあっ!!

迎えるキスカ港の  
兵士たちは  
歓声を上げ  
皆泣いていました



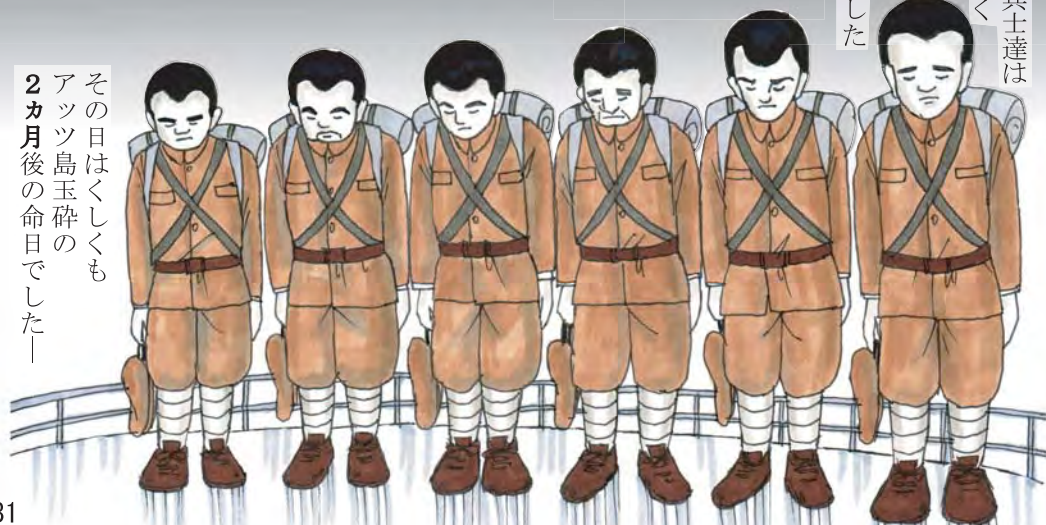
この所要時間が  
わずか55分でした

全員が乗りこみ  
最後に峯木と秋山が  
乗りこみました



彼等を收容する際に  
銃が惜しげもなく  
海に投げこまれました

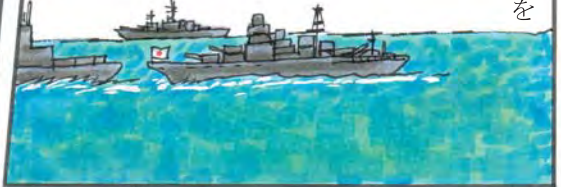
助けられた兵士達は  
誰彼ともなく  
自然と  
北に向かい  
脱帽し  
頭を垂れました



その日はくしくも  
アッツ島玉砕の  
2ヵ月後の命日でした――



一方最新レーダーを  
搭載した米軍は  
レーダーに映った  
島影を日本艦隊と  
勘違いし猛射撃し  
軍備補給の為  
一旦引返したのが  
29日だったのです



木村の  
機を待つ勇氣が  
見事に  
的中したのです



まさに奇跡の  
一日だったのです！

8月14日  
米軍はアッツ島での  
日本軍の奮闘の経験から  
兵力を**3万4千人**に  
増やしキスカ島に上陸  
しました



濃霧の中日本兵が  
待構えていると  
怖れた米軍は  
激しく発砲し  
同士討ちが起き



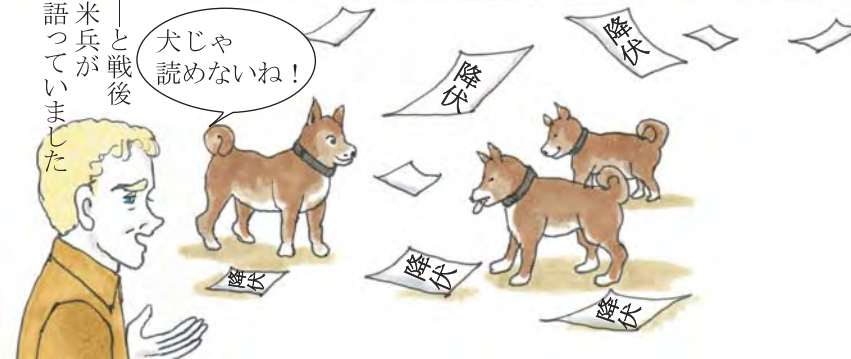
死者**25人**  
負傷者**31人**を  
出しました

Oh No!!



日本軍医が偽装して掲げた  
「**ペスト患者収容所**」という  
看板を見つけワクチンまで  
取寄せる始末でした

結局米軍側は  
捕虜にしたのは  
軍用犬**4頭**だけでした  
降伏するように  
**10万枚**のチラシを  
投下しました



犬じゃ  
読めないね！

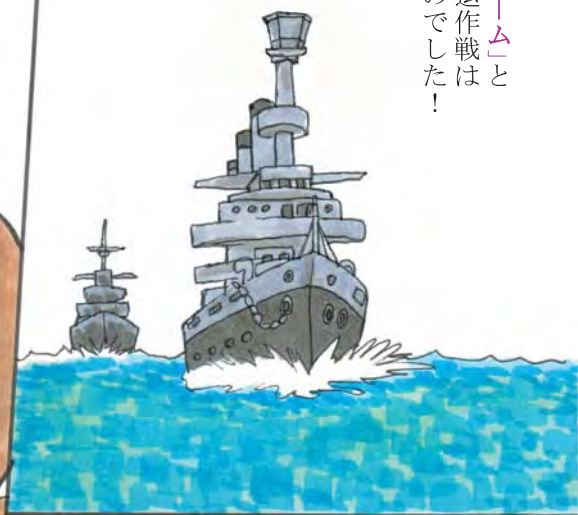
——と戦後  
米兵が  
語っていました

こうして米軍が  
「**パーフェクトゲーム**」と  
呼んだキスカ撤退作戦は  
見事に成功したのでした！

樋口メモによると――

成功の要因は  
陸海軍の連携と  
アッツ島英霊の加護  
によるものです

――とどんな時も  
謙虚に語っています



そして  
昭和**20年**8月**15日**  
日本は**ポツダム宣言**を  
受諾して終戦を  
迎えました

8月18日ソ連が  
北海道占領を目論み  
南樺太と占守島侵攻を  
始めたのです

ゆるせん！

当時日本はソ連と  
**日ソ不可侵条約**を結んでいたの  
でまぎれもない侵略行為でした  
これに樋口は激怒しました

しかし  
あろうことか  
大本営は  
戦闘行動の全面停止  
を各地に打電した  
のでした





大本営には  
敵軍と停戦交渉を  
要求しつつ  
現地には徹底抗戦  
を指示しました

またもや  
樋口は独断で  
英断しました

断乎反撃せよ!!  
ソ連の上陸軍を  
粉碎せよ!!

占守島には  
杉野 巖少将及び  
池田 末男大佐率いる  
戦車第十一戦隊が  
駐屯していました

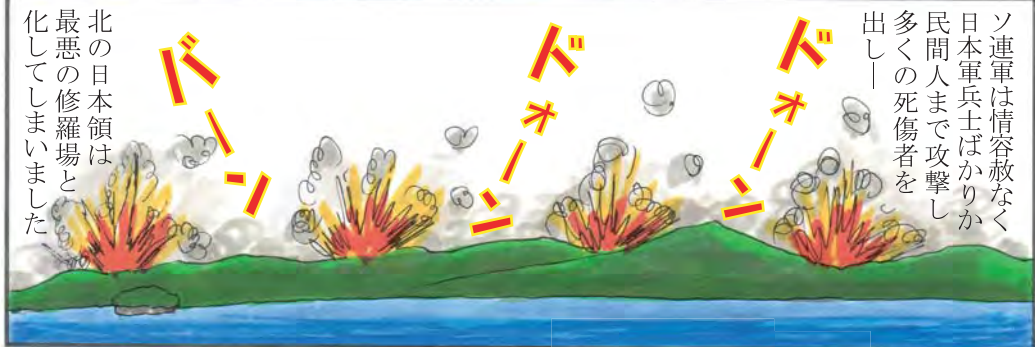


ソ連の攻撃は  
熾烈を極めました  
しかし日本軍も  
最北端の領土を死守せんと  
果敢に抵抗しました

中でも第十一という数字が  
「土」に見えるとして  
自ら士魂部隊と称した  
池田戦車連隊の  
邀撃(ようげき)は  
すざましいものでした



ソ連軍は情容赦なく  
日本軍兵士ばかりか  
民間人まで攻撃し  
多くの死傷者を  
出し――



北の日本領は  
最悪の修羅場と  
化してしまいました

この悪劣非道な  
ソ連軍の攻撃は  
25日まで続き――



米国大統領  
トルーマンが  
ソ連の北海道占領を  
認めないと公言して  
ようやく  
停戦となったのです



北海道では  
「樋口の目」を  
設けても  
おかしくない  
くらい

樋口の功績は  
大きいのです！



一方同じように終戦直後に  
大本営の指示に従って  
武装解除に応じた満州では  
ソ連兵の略奪で犠牲者数知れず  
状態でした



またまた  
樋口の英断によって  
北海道は救われた  
のでした



さてソ連側スターリンは  
この戦いを  
「大戦最大の恥辱」  
として悔しがりました





そして戦後—  
煮え湯を飲まされたソ連は  
樋口を戦犯として訴追しました



どんな時も  
泰然としている樋口は  
敗軍の将として覚悟を  
決めていました



—ところが  
米国が樋口の身柄を  
ソ連への引渡しを  
拒否したのです

それは米国内において  
オトポール事件の  
顛末を知っている  
世界ユダヤ協会が  
樋口救出の  
ロビー活動をした  
ためでした



樋口はこれを聞いて  
思わず涙した  
そうです



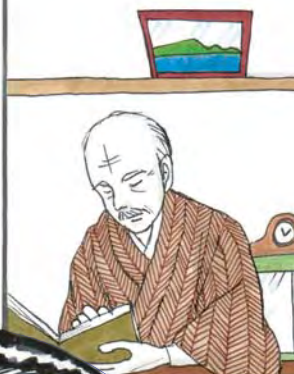
戦後米軍も徹底的に  
樋口を取り調べたところ  
捕虜虐待や致死事件が一切なく  
戦後処理もスピーディーだったことが  
判明して—

あなたは  
偉大なる  
人道主義者だ！

と取り調べた  
ジム・キャツスル中佐に  
言わせました



戦後樋口は表舞台に出ることなく  
家族とひっそり暮らし  
「死ぬまで勉強」の自論で  
海外文学作品を原書で読んだり  
訳したりしました



昭和43  
年には  
念願のアッツ島  
玉砕将兵の  
慰霊祭に参列し



いの一番で  
山崎大佐の子息に  
頭を下げたそうです

それから2年後  
枯木が倒れるように  
82才の大往生をとげました  
まさに巨星墜つーと言った感じですよ



樋口季一郎  
ひぐちきいちろう

日本人なら絶対心に刻んで  
おきたい偉大なる人物です



# 福山の思い出



在りし日の萬寶山記念碑

巨大な台石は「ばら公園」駐車場脇に三分割して移設され現存する  
建設経過を記した石板や手前の踏み台は備後護国神社に移設されている



樋口の左隣は相沢中佐、その左が静子夫人、中央が尾道高女在学中の長女・美智子



歩兵第41連隊第17代連隊長・樋口季一郎大佐(当時) 昭和10年3月撮影





9784905346418

ISBN978-4-905346-41-8

C0021 ¥00200E

定価(本体価格200円+税)



1920021002007

奇跡の將軍 樋口季一郎 令和3年9月23日 初版発行  
著者:大田祐介 発行所:(株)福山健康舎 印刷所:ツー・プライ(株)



漫画著者: いそ よね かずよし  
**磯 米 ・ 和義**

「マチュピチュに行って来た!!」いそつぷ社  
「特攻花」学芸みらい社  
「モスグリーンの青春」展転社

URL:<https://isokunganbaru.web.fc2.com>

又は「イソ君がんばる」で検索

趣味: 和太鼓・軽目の登山・読書



NHKで紹介されました



おおた ゆうすけ  
**監修: 大田祐介**  
(福山市議会議員)

昭和43年3月生まれ  
歩兵第四一連隊の足跡

「永遠の四一」の著者  
(発行: 福山健康舎  
価格: 4,100円税込み)



**HIGUCHI ROUTE**

樋口が開いた欧州～オトポール～ハルピン～上海  
というユダヤ難民の脱出ルートの名前を冠した  
ワインを山野峡大田ワイナリーで醸造しました。  
<https://yamano-wine.com/>

販売: 山野峡大田ワイナリー ☎084-974-2754

連絡先: 〒720-0804 広島県福山市緑町2-13

(41連隊兵営跡地) 大田祐介

メール: [orion@urban.ne.jp](mailto:orion@urban.ne.jp)